

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	帯広市民オペラ公演実行委員会	
施 設 名	帯広市民文化ホール	
助 成 対 象 活 動 名	人材育成事業	
内定額(総額)	660	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	660	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p data-bbox="129 338 1481 421">社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p data-bbox="129 488 1481 660">帯広市17万人及び周辺町村を含む十勝圏34万人の中核的文化施設として、文化活動の場としての利用とともに、地域の文化振興を支え、文化芸術活動の担い手を育成し、地域の活性化、中心市街地のにぎわい創出に寄与するという役割がある当ホールにおいて、舞台技術職員が直営である、主催団体でもある「帯広交響楽団」、「帯広市民劇場運営委員会」の事務局があるという強みを生かし事業の企画、運営、実施に取り組んだ。</p> <p data-bbox="129 678 1481 902">帯広市に市民オーケストラ「帯広交響楽団」が発足して以来30年に亘り一貫してプロの指導を受けることにより演奏技術の向上を図るとともに、子どもから大人まで市民にクラシック音楽を身近に感じられるような演奏活動を行ってきた。また、昭和38年に設立した帯広市民劇場運営委員会は、50年以上に亘り、官民協働で様々な文化事業を行ってきた。2つの団体から広がる人脈により多くの人とのつながりの中から大規模公演が実現できたと考える。</p> <p data-bbox="129 920 1481 1048">約2年に亘る企画・準備期間を経て公演に至った過程には、実行委員会内の役割分担を明確にすることに加え、情報が1団体に留まらないように情報共有したことが事業の大きな成功の要因になり、計画通り事業を進めることができた。</p>
<p data-bbox="129 1249 1481 1283">助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p data-bbox="129 1350 1481 1478">出演者、スタッフなど約230人が参加した市民オペラ公演では、実行委員のみならず、帯広市内の企業、団体等の支援を得るなど多くの市民が本事業に関わることにより、地域の文化芸術活動はもとより、地域の活性化に繋がり、地域の発展に貢献できたと考える。</p> <p data-bbox="129 1541 1481 1624">本番前のゲネプロには、帯広養護学校、帯広盲学校、帯広聾学校の児童と保護者を招待し、日頃、鑑賞する機会の少ないオペラ公演を帯広市民文化ホールの客席で鑑賞してもらうことができた。</p> <p data-bbox="129 1641 1481 1769">帯広市内で就学支援を受けている児童生徒、保護者を招待し、親子で公演を鑑賞してもらった。このような取り組みにより、子供たち、保護者、先生がともに感動を共有し、オペラ公演の素晴らしさ、魅力を伝えることができたと考える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

企画、運営、公演まで多くの市民が参加したオペラ公演では、オーディションで選出されたソリストをはじめ、管弦楽、合唱、児童合唱、バレエ、助演の149名が出演し、指導者、スタッフ、当日のボランティアスタッフなど77名の市民が参加し2日間の公演を実施した。

本事業では、指揮者、演出家、舞台監督、舞台監督補を招聘し、事業の企画運営と併せて地元の指導者、スタッフの育成に重点を置いた取り組みを行った。このことは4年に1度の継続開催を目指す体制づくりに繋がるものとする。

また、男性出演者の人材不足から男性ソリストを招聘したが、地元出演者との練習を重ねることによりレベルの向上が図られ研鑽の場に繋がったものとする。

本番前に中札内村で実施したリハーサルを公開し80人が鑑賞した。今回初めて帯広市以外での公開リハーサルの実施は、市民オペラの活動が帯広市内だけにとどまらず十勝圏に広がるきっかけになったものとする。

平成27年に実施した第5回帯広市民オペラ公演の鑑賞者アンケートでは、観客の半数近くは60代以上という結果だった。公演に来た理由については、「家族、友人が出演するので」という回答が半数を占め、市民オペラ、演目に興味があったという回答が14%という少なさだった。

そのため、若年層の出演者の参加呼びかけを行うとともに20～40代の鑑賞者増加を目指し、関係者以外の観客の動員にも努めた。

取り組みとしては、オーディションから本番まで地元新聞などで進捗状況を広く取り上げてもらう、ソリスト全員の紹介を掲載してもらう、興味を引く内容の広報紙を発行するなどPRに力を入れた。また近隣村で公開リハーサルを実施するなど十勝圏に亘る活動を展開した。

その結果、10代～50代は全体の56%（10代9%、20代6%、30代9%、40代13%、50代19%）と増え、公演に来た理由についても、「市民オペラ、演目に興味があった」が39%で、はじめて市民オペラを観たという回答も多く見られ、幅広い層の市民に理解と関心を持ってもらうことができ、鑑賞者層の拡充につながったものとする。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

一昨年11月に実行委員会を立ち上げ事業を開始、実行委員会構成団体の役割分担を明文化することにより、実行委員各々の業務内容が明確になり、スムーズな運営になったと考える。運営スタッフによる打ち合わせの他に主催団体の実務担当者による会議を定期的実施して各担当の進捗状況を確認し合い、情報を共有したことにより計画とおりに事業を進めることができた。

約1年の練習期間を作るために通常よりも早めに事業を着手したことにより、ソリストのオーディション、合唱団等の募集などを計画的に実施することができた。

事業費については、地元男性ソリスト1名が体調不良により降板したことにより、急遽、ゲストソリストを頼み経費が増えたことと、より芸術性の高い公演を目指し、ゲストソリストと地元出演者との練習回数を増加したことに伴い、ゲストソリスト料が当初予算よりも増えた。

また、演出上の効果により大小舞台費、衣装費が当初予算より増えたが、他の経費を見直しをするとともに、市内企業、団体・個人からの協賛金を充てるなどして進めた。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

第6回帯広市民オペラ公演では、運営体制を従来の当財団主体から帯広市民オペラの会、帯広交響楽団、市民バレエ『ティアラの会』、帯広市民劇場運営委員会、帯広市、帯広市教育委員会、一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団の7者で組織する実行委員会体制へ形を変え実施した。各団体の役割を明確にすることにより帯広市民オペラの会を中心としたより自主的な体制が構築され今後の継続開催の体制基盤に繋がったことは大きな収穫と言える。

当ホール職員は、過去5回の実績、経験を活かし、帯広市民オペラの会をはじめ実行委員会の制作面をサポートし、運営スタッフ、当日のボランティアスタッフの協力のもと本事業を実施することができたと考える。

当ホールの舞台技術職員は、日頃より資格取得、研修受講などで身に付けた知識、経験を地元文化団体の公演で利用者の要望を最大限に生かす照明、音響等の舞台づくりを実施するという形で市民に還元しているが、今回の公演では、演出家、舞台監督の意向を酌みながら、照明、音響プランを制作し、舞台全般を担当した。

また、本公演は、日本語上演だが、障がい者、高齢者がより鑑賞しやすい環境を作るために字幕を設置した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

平成9年に第1回帯広市民オペラを開催して以来、4年に1度の実施を目標に回を重ね、毎回、行政、文化団体、経済界と市民が一体となって作り上げる他に類をみない活動展開を行ってきた。

常に高みを目指す取り組みを行い、指導者を招聘し、指導を受けることによって演奏者、指導者の人材育成に重点を置く取り組みを行ってきた。このことは地域の芸術文化の発展向上につながったものとする。

17万の地方都市でありながら市民オーケストラがあり、そこから創り出される大規模舞台公演は、20年以上に亘って地域に定着した事業になっている。出演をきっかけにプロの声楽家や音大を目指したり、文化団体・個人の演奏活動が活発なるなど地域の文化芸術の向上発展につながったものとする。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

帯広市民文化ホールには、現在10名の舞台技術職員が在籍しており、日頃より資格取得、研修受講などでレベルの向上を図り、知識、経験を地元文化団体等の公演利用者の要望を最大限に生かした舞台を提供するという形で市民に還元している。本事業をはじめ、市民参加のオペラ、バレエ公演においては、毎回、音響・照明プランナーとして舞台づくりに参画している。

事業終了後にも資格取得や講習会等に参加し、スキル向上を目指し研鑽を積んでいる。今後もスキル向上の取り組みを継続し、習得した技術を市民に提供していきたいと考える。

本事業において職員が経験し、今までの実績で培ったノウハウを今後の地域の文化芸術活動に様々な形で貢献できるよう努めたいと考える。

また、舞台芸術活動に主体的に携わり、その魅力や価値を広く振興するための多様な人材（アーティストやスタッフ）を帯広・十勝で発掘、育成することを目的に表現者だけではなく舞台芸術に関心を持つ人を増やす取り組みを進めていきたいと考える

市民参加の大規模な公演では、市民の理解を得ることはもとより財政面での支援も必要不可欠になるが、本事業では、市内の企業、団体、個人の多くの支援があったが、今後も理解者を増やしていくため今回の事業で形成された体制の上に新たな回路を見出し組織展開をしていきたいと考える。